

◆修正前

1 基本理念

村民一人ひとりが、生涯にわたって心身を健康に保ち、豊かな感性をもっていきいきと生活できるよう、次の基本理念を定めて食育を推進します。

**豊かな自然と農ある暮らしに感謝し、
様々なつながりの中で育む、健やかな心とからだ
未来をつなぐ食文化のむら**

白馬村固有の風土や食文化などの特性を生かしながら、みんなで楽しく食べる（共食[※]）の中で、感謝と思いやりの心を育むと共に、あらゆる機会（つながり）を通じて、食と健康との関わりを学び、健康長寿につながる食生活の実践を推進します。

先人の知恵を大切に、郷土愛を育み、白馬の食文化を次世代に継承していきます。



◆修正案に関するご意見

修正案

A

(5票)

**豊かな自然と農ある暮らしに感謝し、
様々なつながりの中で、健やかな心とからだを育み、
未来へつなぐ食文化のむら**

- ・「様々な」は曖昧である
- ・前回よりわかりやすくなった

修正案

B

(5票)

**健やかな心とからだを育み、
「食」でつながる白馬の「恵(めぐみ)」**

- ・基本理念なのでシンプルなものの方がよい、食育をイメージしやすい

- ・AとBを合体させてもよいのでは
- ・共食、郷食、協食、供食、強食等、幅広い意味をもつC案はどうか

修正案

C

「きょう食」で育む、豊かなところ、健やかなからだ

検討事項② 5年間の推進テーマ

◆修正案に関するご意見

3 5年間の推進テーマ

食を通じて健康な心身を育み維持するためには、村民ひとりひとりの意識の向上だけでなく、村全体が目標に向かい連帯を強めることが重要です。

そこで、村が一体となって基本的目標を達成するために、年度ごとに共通する取組みとして、推進テーマを掲げました。

なお、推進テーマは基本目標の推進にあたり、村民に向けての活動の基となることから、理解しやすく、取り組みやすい内容としました。

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
朝ごはんを たべよう	みんなで たべよう	野菜を たべよう	みんなで つくろう	白馬の食 を知ろう

- ・修正前のまま具体的な表現の方が、実効性があるのではないか
- ・修正後の表現の方が制限、混乱がなく良い
- ・白馬村の課題を踏まえた内容でどの関係団体もそれぞれの立場から取り組みそうな内容でよい
- ・ストーリー性を持たせるのであれば、初めに「知ろう」からはじまり、次年度以降具体的な内容にするのがよいのではないか
- ・「みんなでつくろう」は表現がわかりにくい
→「食をつくろう」としてはどうか
- ・白馬の食を知ろう→みんなでつくろうの順にしてはどうか
- ・食への感謝の気持ちの項目があってもよいのではないか（「心をこめて『いただきます』」等）
- ・5年間を通しての重点目標としてまず、県の「ACEプロジェクト『減らそう塩分、増やそう野菜』」にちなんで、減塩と野菜摂取を上げ、そのうえで毎年のテーマを上げてはどうか
- ・積み重ねていくような表現の仕方がわかりやすいのでは



◆再修正案

3 5年間の推進テーマ

食を通じて健康な心身を育み維持するためには、村民ひとりひとりの意識の向上だけでなく、村全体が目標に向かい連帯を強めることが重要です。

そこで、村が一体となって基本的目標を達成するために、年度ごとに共通する取組みとして、推進テーマを掲げました。

なお、推進テーマは基本目標の推進にあたり、村民に向けての活動の基となることから、理解しやすく、取り組みやすい内容としました。

「食をつくろう」(33年度テーマ)

「野菜をたべよう」(32年度テーマ)

「みんなでたべよう」(31年度テーマ)

「朝ごはんをたべよう」(30年度テーマ)

「白馬の食を知ろう」(29年度テーマ)

- ※「みんなでつくろう」という語が曖昧なため「食をつくろう」とさせていただきます。
- ※周知→実践といった流れを加味し、「白馬の食を知ろう」の項目を最初に上げさせていただきました。
- ※食への感謝の気持ちにつきましては、1年のテーマとしては実施に繋げにくいこともあり、「みんなでたべよう」の中の実施項目の一つとして考えました。
- ※5年間を通しての減塩・野菜摂取の重点項目につきましては、基本目標が薄れてしまう可能性があるのではないかと考え、テーマのみ掲げさせていただきました。

検討事項③ 朝食摂取率 小学生目標値

◆修正案に関するご意見

評価指標	対象	現状	目標	備考
毎日朝食を食べる人の割合	3歳児	98.0%	100%	3歳児健診おたずね票
	小学生	88.7%	100%	長野県 児童生徒食に関する実態調査（小5）
	中学生	84.6%	100%	長野県 児童生徒食に関する実態調査（中2）
	成人	80.0%	85.0%	*

・修正案に賛同

検討事項④ 地産地消の概況

◆修正案に関するご意見

② 白馬村の農家戸数の状況と地場産推進會

本村の農業就業人口は減少傾向にあり、年々高齢化も進んでおり、平成 27 年の総農家数は 532 戸となっています。増減を平成 22 年と比較してみると 30%減少しています。一方、地産地消の中核組織として、学校給食・直売所への農産物を供給している白馬地場産推進會の会員や活動は、ほぼ横ばいとなっています。

○総農家数の推移 (単位：戸)

	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	増減 (27-22)	増減 (27/22)
白馬村	654	694	532	△162	70%

※農林業センサスより

○地場産推進會会員数と道の駅直売所における会員売上げの推移 (単位：人・千円)

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	増減 (27/24)
会員数	65	65	55	60	92%
売上額	12,068	10,339	12,074	11,931	98.9%

※地場産推進會総會資料より

- ・「総農家数の推移」において、右端欄、%の増減は「戸数の増減」に合わせて△(マイナス)とした方が自然ではないか。
- ・地場産推進會の方で給食に大変協力して地産地消を進めている。数値やグラフ等是非のせてもらいたい。
- ・道の駅における会員の売上げは必要か。会員数と保育園、学校給食への供給状況のみあれば良いのでは。
- ・微妙な問題もあるが、修正前より資料として参考になる。
- ・地場産推進會会員数等の表は地産地消につながるデータで、掲載することはよい。本文 3 行目「会員(数)や活動はほぼ横ばいとなっています」とあるが、表の「売上額」が、活動のことを示しているのか。
- ・「総農家数」の表は平成 17 年度からの数値が記載されているが、第 1 期以前のデータは必要か。



◆再修正案

② 白馬村の農家戸数の状況と地場産推進會

本村の農業就業人口は減少傾向にあり、年々高齢化も進んでおり、平成 27 年の総農家数は 532 戸となっています。増減を平成 22 年と比較してみると 30%減少しています。一方、地産地消の中核組織として、学校給食・直売所への農産物を供給している白馬地場産推進會の会員や活動は、ほぼ横ばいとなっています。

○総農家数の推移 (単位：戸)

	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	増減 (27-22)	増減 (27/22)
白馬村	654	694	532	△162	△30%

※農林業センサスより

○地場産推進會会員数と道の駅直売所における会員売上げの推移 (単位：人・千円)

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	増減 (27/24)
会員数	65	65	55	60	92%
売上額	12,068	10,339	12,074	11,931	98.9%

※地場産推進會総會資料より

※「総農家数」の推移の増減の%欄をマイナス表示に変更いたしました。

※道の駅による売上額については、食育には直接つながらない情報かとも思いますが、参考になるとの意見もあるため、委員の皆様のご協議をお願いいたします。

※「総農家数」の表に第 1 期以前のデータを載せておりますが、参照データが農林業センサス(5年ごと)のため、第 1 期(平成 24 年～)以後だと平成 27 年のものしかございません。農家数の推移を把握する意味で、現行のまま載せたいと考えます。